



富山大学和漢医薬学総合研究所
未病解析応用研究部門

上馬場 和夫氏

統合医療実現へ 広がりみせるアーユルヴェーダ

昨年11月、今年31回目となる日本アーユルヴェーダ学会の東京研究総会が開催された。特別講演や教育講演、シンポジウムでは、歯科、ヨーガ、エステティック、遺伝子研究、環境の各分野からの取り組みが紹介された。同総会の会長上馬場和夫氏に、国内でのアーユルヴェーダの現状を聞いた。上馬場氏は、2月開催の統合医療展（東京ビッグサイト）でも講演する。

美容におけるアーユルヴェーダの取り組みは？

ここ数年、アーユルヴェーダは、健康、美容の様々な領域に広がりを見せています。特に、今回の総会では、異なる分野の方々にお集まりいただき最新の状況をご紹介いただくことができました。

美容分野への取り組みでは、京都のエステティックサロンが、ファスティングや温熱療法、トリートメントを受けるデトックス目的の沖縄へのヘルスツーリズムを実施している例。美容教育の中にアーユルヴェーダ学科を設けた岡山のビューティースクールの例。インドのエステティックを日本で取り入れている例などがあります。

私に関わっているものでは、アーユルヴェーダの代表的な施術「シローダーラーの人工知能搭載ロボット」の開発です。これにより施術条件を自動的に選択し、施術を快適にする

ことや施術者の負担も軽減することができます。また、薬草温熱療法の一つの「スヴェーダナベッド」では、温度が制御できるものも開発しました。これらによってアーユルヴェーダの施術を科学的に検証することができ、飛躍的にサービスの場を広げていけるようになると考えています。

美容以外での取り組みとしては

母と子のためのアーユルヴェーダという視点もあります。助産師が新生児へ行うベビーマッサージに取り入れ、脂漏性湿疹がかなりの確率で予防できています。出産前後の母体に行うペリネイタルケアでは、妊娠中の不調、乳房の張りの緩和などで効果を出している例もあります。タッチコミュニケーションによる乳幼児虐待予防の可能性も見逃せません。これらがセルフマッサージとして広がっていくことで、まず民間レベルにアーユルヴェーダへの理解が

上馬場和夫氏
広島大学医学部医学科卒。1999年富山県国際伝統医学センター次長。08年から富山大学和漢研未病研究部門客員教授。

深まっていくと考えています。

また、現在、石垣島や福島を始め国内各所でアーユルヴェーダハーブを栽培する動きがでてきました。沖縄では、センダンをアーユルヴェーダの和風ハーブとして利用し健康食品を開発した例もあります。

一方、先端的な研究では、アーユルヴェーダと遺伝子との関係、環境への配慮についても研究が進んでいます。

統合医療としての可能性は

アーユルヴェーダはサンスクリット語で生命の科学という意味で、極めて理論的で科



学的な体系です。欧米での補完代替医療の隆盛とともに多くの治療法に関する情報が氾濫してきました。そしていま、その治療法をどうとらえ、有効性をどう評価すればよいのかが課題になってきました。

アーユルヴェーダでは、治療や老化の予防について浄化療法を重視していますが、これは現代医学でも応用できる普遍的な手法といえます。こ

のように統合医療のひな形として、治療、エステティックや各種のアンチエイジング法など予防医学の分野、さらに看護、介護の分野での有用性は高いのです。

総合エイジングケア・セミナー
2月9日 14:00～15:00
「総合医療におけるアーユルヴェーダ～アーユルヴェーダの細胞健康科学～」で実施する